いわい山田無文という人の書いた「碧巌物語」という，平易にこれらの公案を解説した本がありましたので，これより1つの見方考え方を学んでいます．しょせん認識過程における大悟・大解脱の境地にいたる推移は，私のごとき凡夫にわからぬところですが，せめて公案の問答より，彼の境地の幾許かでも味わおうと試みています．

ところで，なにかよからぬシステムを解明するとき，このブラックボックス系に種々のインプットをし，これに対して反応するさまざまのアウトプットより，この系内のシステムを推定します．これは精神面におよぶときにもかなり応用できるようです．善知識が聞いたら激怒三千棒かもしれませんが，この難解な碧巌録をよんでいるうちに，これをブラックボックス系にのせて，『だれでもわかる碧巌録』てなものができぬものかと，つくづく考えました．

早稲田大学
社会科学部　常田　稔

実務家と研究者の共同作業　昨年4月，現在の職場に移った．それまで工学系単科大学にいたために，望んでもなかなかはたせなかった，社会科学系研究者との交流をおおいに図り，社会科学分野の情報入手に努めている．これは，現在進行中の都市のコンピュータ・シミュレーション・モデルづくり（SDのような人口，資本など都市の，いわば量的側面の変化を記述するモデルに対し，街なみのイメージ，住民の意識など，どちらかといえば都市の質的側面の変化も記述できるモデルをめざしている）の仕事にかなり役立つ．これを機会に，以前から興味を抱いていた公共問題へのORの適用というテーマに，社会科学の分野の人々と，共同作業でとりくんでみたいとも考えている．

それにしても，ORはやはり実務家と研究者の交流・協力があってはじめて，いい仕事ができるしろもの．その意味から，実務家の方々との接触・共同研究を切望している昨今である．

姫路工業大学
電気工学教室　寺岡　義伸

相互反射理論から決定理論へ　以前は照明工学とくに光の相互反射理論を研究し，反射性および透過性をもつ面を含む，複雑な空間内での光の極限分布を求める基本方程式をつくりだし，具体的な照明システムに適用することに従事しておりました．7年前から，大阪大学の阪口教授のご指導のもとでORを勉強し，現在まで主として，情報と決定の問題にエネルギーを集中しております．

最近になってよく考えるのですが，一見，無関係にみられる上記の2つの分野に，大きな類似性があったことです．照明工学の目的は最小の費用でもって最大限の光を発生させ，その光を人間にとってもっとも快適な形で利用できるようにすることだと思えます．このことはまさしくOR自身が問われている問題ではないでしょうか．また数学的方法にしましても，ゲームの理論や数理計画法，確率論などにでてくる考え方が無意識のうちにいろいろなところにでてきます．たとえば，前述の相互反射の基本方程式は，確率過程やマルコフ決定過程などに随時でてくる関数方程式と同じ構造をもっていることです．

OR理論に向けられる最近の批判とは，もっと具体的な小さな問題を，必然性という土台のうえで，着実に解決していくという態度の欠如に対してのことではないのでしょうか．よく反省するこのごろです．

編集後記　▼最近ある読者の方に，本誌は情報量が豊富で創造性も高く，毎月が待ち遠しいとホメラレタ．▼また最近，毎日の仕事上のなぐり書きメモ用紙Aを捨てずに，ある程度溜ってから他の整理記入したノートBと，同一期間について比べてみた．そして驚いたことは，情報量ではA＞B，創造性ではA≫Bであった．▼タテ前も本音も，一切が一つのシステムとして動き始める度に，OR児のための鯉のぼりが大空に翻るであろう．（T′）

オペレーションズ・リサーチ

昭和51年5月号　第21巻（新シリーズ第1巻）5号　通巻185号
発行人　森口繁一
編集人　森村英典
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
〒113　東京都文京区弥生2-4-16　学会センタービル
（電話　03—815—3351～2）
発売所　株式会社　日科技連出版社
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2

本誌の直接ご注文は
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価　600円（郵送料含）　年間予約購読料　6,600円（郵送料含）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．